

『報徳のおしえ』とともに

豊頃町「報徳のおしえ」推進会議「ひろめよう！報徳の町に四つの心」



令和3年度「報徳のおしえ」講演会 講演テーマ「報徳」からはじまる豊かな未来創造へ〈その3〉

令和4年、新年を迎えました。今年も尊徳の村々の再建に寄せる思いや考えを学んでいきましょう。

《中桐万里子氏講演より》



▲中桐万里子氏

「どんな時でも活動をするその前にすることは、その本当の願いに気づくこと。あるいは、自分自身が本当に何をしたいのかと考えること。その場所がとても大事なのではないのだろうか」と金次郎は言いました。「例えば、台風がやってきて町の木が倒れたとする。その時に多くの人は「あ、台風が来たから松の木が倒れた。」と、でもそれでは再建はできない。それは本当の理由ではないのじゃないか。なぜなら、本当に台風が来て松の木が倒れるとしたら、世界中の松の木が倒れるでしょう。だけどそうじゃない、よりによってこの松の木が

倒れたのだ。だとしたら本当の理由は台風にあるのではなくて、その松の木自身にあるのではないのか。その根っこが腐っていたのだろうか。あるいはもう長年生きてきた松なのだろうか。原因は、外側にあるのではない自分自身の中にある。自分自身をもう一度掘ってみる。原因や願いが、本当に何なのかをもう一度考えてみる。そこからしか行動は始まらない。復活や再建は始まらない。幸せへの道のりは始まらない」そのことが彼の思いだったというわけだ。

「命を懸けるとまでは言われないけれど、しかしあなた達には、まだ民のために行えることがあるのではないか。まだまだ自分たちでやれることがあるのではないか」それが、「たすけてくれ」と書きこまれたことに金次郎が答えたこと。「もともと自分自身の力を思い出し、自分自身の願いを思い出してほしい」と、そんなふうには彼は言うのです。

金次郎は言いました。「草木が枯れたり栄えたりする。そんなふうに見えるところを考えると、私達は、いついそその目に見える場所だけに、思いをもつていかれてしまう。でも本当の原因は、なぜ草が豊かなのか、なぜ草が枯れ始めたのか、それは根っこの方に原因があるのではないだろうか。草木の栄枯は、根の盛衰に原因を持っている。全ての

のが疲れ果てるのは、また衰退してしまふのは、道を見失うことから始まる。本当の自分と繋がるのが、できなくなつてから始まるのではないか。皆がもう一度自分の願いに戻る。そこからスタートしようじゃないか」というふう呼びかけたわけだ。皆にもう一度、自分の力を思い出してもらうこと、そのことから始めようとしたわけだ。

再建のお手伝い、支援、ということが彼の仕事でありました。そうやって一人一人に、豊かで力強い生産者になつてもらう。そんなふうに応援をする。人づくりをする。教育をする。その時に金次郎には、大事にしていたことがあったのです。

現在の教育、子育て人づくりでは、こんなことが意外と大事にされたりします。褒める、讃える。その人たちを豊かに力強くするために、「褒め育て」とか、人の良いところに光を当て、良いところを活性化させていく。つまりその人たちの長所に、その人たちの強みにアプローチをし、その強みを生かしていく。そんなかたちで人を元気にしようとする。あるいは育てようとする方法がとられることが多いわけだ。

しかし、金次郎の考え方や町おこしにおいて、ここはさほど大きなことではなかったと私自身は思っています。そもそも私自身は、「褒め育て」とい

うのは個人的にはあまり好きではなかった。なぜ好きではないかという理由は、褒めるというのは、良いこともありすが、かなり危ないことも持っていると言えるでしょう。人は褒められれば褒められるほど、最初はうれしくてウキウキします。確かに自信もつくかもしれませんが、でも、あまりにも褒められるとどうなるか、それは失敗を恐れるようになる。ダメな自分を隠すようになる。傷つくことを異様に恐れてしまう。そんなことにもなるのではないかと思うのです。

「褒め育て」は一見愛情のようですが、私は条件付きの愛情ではないのかと思っています。その人の良いところだから好き、その人の凄いやるところだから好き、そのように条件を付けられると、人は最後には苦しくなっていくのではないかと私はそんなに立派な人間じゃない、そんなに凄いやるところばかりじゃない」と、褒められるほどに、どんないやな気分になることもあるかもしれません。

人を元気にするときには大事なことで、それは褒める讃えること以上に、「支える。向き合う」ということではないか、むしろその人たちが困っている時、苦しい時、悲しい時、できない時、そんな時にその者に一緒に向き合っていく。その者を一緒に受けとめようとしていく。そのように思うのです。

《次号へつづく》

問合せ先

教育委員会社会教育係 ☎579・5801

駐在だよりはるにれ

みんなであつくり 安心なまち

冬道での交通事故防止のポイント

◆余裕をもった運転を

目的地までの天候や道路状況を事前に把握して、時間に余裕を持って出発しましょう。

◆スピードダウンと慎重な運転を

冬道ではスリップによる正面衝突の交通事故が多発しています。スピードダウンと路面状況に合わせた慎重な運転を心がけましょう。

◆「急」のつく運転操作は危険

急発進・急加速・急ハンドル・急ブレーキといった「急」のつく運転操作はスリップにつながり大変危険ですのでやめましょう。

◆交差点に注意

交差点では、「車が来ているかもしれない」、「歩行者が横断しているかもしれない」と危険を予測して、徐行と安全確認を徹底しましょう。

◆悪天候に注意

吹雪や大雪など悪天候時の運転は、吹き溜まりや視界不良による立ち往生等の危険が伴いますので、不要な外出は控えましょう。

氷上釣りでの事故に注意！

◆水中転落事故の防止

十勝川や長節湖などの氷上での釣り中に、氷が割れて水中に転落する事故が発生しています。

冬期の水中転落事故は生死にかかわります。氷上で釣りをするときには、「自分の身は自分で守る」ことを第一に考え、危険な場所には絶対に近づかないようにしましょう。

◆一酸化炭素中毒事故の防止

閉め切ったテント内でのストーブ等の火気を使用した釣りでは、換気不足による一酸化炭素中毒事故が発生するおそれがあります。

一酸化炭素中毒は、気づいたときには手遅れになっている可能性があるため、テント内、車内で火気を使用する際は、換気に注意するとともに、一酸化炭素チェッカーを使用しましょう。

問合せ先

池田警察署 ☎572・0110
茂岩駐在所 ☎574・2013
豊頃駐在所 ☎574・2151
大津駐在所 ☎575・2002

農業者年金のお知らせ

問合せ先

農業者年金事務局
☎574・2218

農業者年金に加入しませんか

農業者年金に加入した方から、「制度を知っていたらもっと早く加入したのに」との声があります。

農業者にとつて大変有利な制度です。よく理解をして早期加入により豊かな老後生活を過ごしましょう。
国民年金の第1号被保険者で、年間60日以上農業に従事する20歳以上60歳未満の方は誰でも加入することができます。

◆制度の特性の主なものは次のとおりです。

- ① 農業経営者、経営者の配偶者、後継者、後継者の配偶者など幅広い加入が可能です。
 - ② 保険料は積立方式・確定拠出型のため安心な年金制度となっています。
 - ③ 支払った保険料は、全額が所得税や住民税の社会保険料控除の対象となります。
 - ④ 終身年金のため老後の年金生活が保証されています。
- ◆ 保険料は次のいずれかのうち一つから選べます。
- ① 月額2万円から6万7千円までの範囲で選択でき、いつでも見直すことができます。

きます。さらに35歳未満で一定の要件を満たす方は1万円からでも加入できます。

② 39歳までに加入した方で一定の要件を満たす方は、保険料月額2万円(固定)に対して国庫補助(上限1万円)を受けられます。

③ 国庫補助を受けられる期間を過ぎた場合は通常の保険料になります。

※ 農業者年金に加入される方は、国民年金の付加年金(月額400円)への加入が必要になります。

農業者年金保険料を見直しましょう

保険料は上限の6万7千円までの範囲内であれば、千円単位で変更は可能です。

また、翌年分を一括して支払う前納の仕組みもあります。納めている保険料の金額を確認し、見直しをご検討される方は早めに農協の窓口で手続きを済ませましょう。

農業者年金についての相談

年金加入、内容確認、年金受給など、いつでもお気軽にご相談ください。

ネットの影に潜むサイバー犯罪 あなたを守るサイバーセキュリティ

サイバーセキュリティは、一つの対策を講じれば大丈夫というわけではありません。複数の対策を併用してインターネットを安全に利用しましょう。